

令和7年度施策評価シート（評価対象年度：令和6年度）

基本政策【分野】	活気にあふれ地球環境にやさしいまちづくり 【産業・環境分野】	施策	20_農林業	所管部長 取りまとめ所属	農地利用担当部長 農業振興課
施策の内容	<p>農業者の持続的かつ安定的な経営を支援するため、営農継続支援や新規就農者の確保とともに、担い手への農地の集積・集約化、農道や水路などの基盤整備、有害鳥獣対策などを推進します。</p> <p>また、水源の涵養や、災害防止等の多様な機能を保全するため、間伐や作業路の整備など、森林整備を推進します。</p>				
めざす姿	<p>農地の集積・集約化が進み、営農環境が整備され、農業者が持続的かつ安定的に農業を営むことができています。</p> <p>森林資源を保全することで、水源の涵養や災害防止機能の確保が図られ、暮らしが守られています。</p>				
重点事業	地域農業経営基盤強化促進計画推進事業	集落道整備事業	農地耕作条件改善事業		
施策構成事業	農業経営基盤強化対策事業費	環境保全型農業推進事業費	有害鳥獣対策事業費		
	農産物ブランド化推進事業費	農業地域環境整備事業費	農村振興整備事業費		
	林業基盤整備事業費	ふるさとの森づくり事業費			
評価					
進捗評価	概ね順調	評価の判断理由	<p>事業規模が大きい農道整備等が中心となる重点事業は、農繁期を避けた施工や天候の影響などから、事業の一部を毎年翌年度に繰り越しております。</p> <p>それ以外の事業については、個々の取組においては成果や進捗等に差異はありますが、農林業施策を構成する事業全体としては、概ね順調に進捗したものと評価しています。</p>		
施策推進上の課題・環境変化	<p>農業全般にわたる課題としては、農業従事者の高齢化や後継者不足等により総体的な担い手が減少しています。また、物価高騰により生産コストが高止まっていますが、経費の増加分を農業生産物へ価格転嫁することが難しい状況です。加えて、温暖化やゲリラ豪雨等の異常気象や鳥獣被害等による農業生産への影響など、農業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、耕作放棄地の増大などが懸念されています。</p> <p>農業生産の効率化に向けた、農道や用排水路施設等の整備における課題としては、田植えから稲刈りまで等を除く農閑期に限定される中で、天候によって農作業や整備等に影響を受けることや、取水・排水口や堰設置箇所等については、地域や耕作者との調整に時間を要するなど、想定した工期が延伸してしまう要素を抱えており、翌年度に繰り越して対応するなど、必ずしも計画どおりに進んでいないのが現状です。</p> <p>また、林業や森林整備においては、国産木材の利用低迷や産業構造の変化等からなる林業の衰退はもとより、森林所有者の管理意欲の低下などの課題が継続しています。重ねて、共有名義の森林所有者の世代交代に伴う所有権移転の困難性などによって、所有者不明の森林が増加しており、土地所有者の同意が必要な事業として、森林の管理や整備を継続する上で大きな課題となっています。</p>				
評価の経過	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	概ね順調	概ね順調			
施策推進の方向性					
方向性	継続				
総評・今後の施策推進方針	<p>地域農業を持続化させるためには、営農継続や多様な新規就農者の確保に向けた支援などを継続・充実化させることにより、農業が効率的で安定した収入が見込める魅力的な産業となり、職業として選ばれるようになることが求められており、併せて、企業や法人などの積極的な農業参入を推進する必要があります。さらに、自然環境の保全に資する有機農業への支援や野生鳥獣等による農業被害の軽減、農業者の所得向上に寄与する農産物ブランド化等に継続的に取り組むと同時に、将来の農地利用を明確化する「地域計画」をブラッシュアップすることにより、担い手を明確化することで農地利用の最適化を推進します。</p> <p>農業生産基盤については、市内でも水稲栽培が盛んな地域の一つである下小稲葉地区の営農環境を改善するため、重点事業に位置づけている「農地耕作条件改善事業」により、農道や用水路の改修整備を継続して着実に取り組むとともに、整備等が必要となる市内の農業用施設の維持管理については、改修工事や関係資材の支給等により、地域と連携・協力して適切に取り組めます。</p> <p>森林整備においては、所有者による整備がままならず間伐等が必要な森林が増加していることから、継続的な間伐作業やこれらの作業を効率的に行うための作業路等の整備等に取り組むことにより、水源涵養機能の向上や災害防止等を図ります。</p>				

成果指標							
成果指標名	現状値	R 5 実績値	R 6 実績値	R 7 実績値	R 8 実績値	R 9 実績値	R 9 目標値(方向性)
指標の定義							
農地の集積、集約化面積	145.96ha (R3)	164.06ha	173.42ha				170.76ha
農業の担い手への農地の集積・集約面積							
森林施業面積	532.5ha (R3)	562.17ha	572.18ha				623ha
水源の森林協力協約推進事業により森林施業を行った面積							
農道の整備延長	882m (R3)	1,172m	1,432m				2,642m
基盤整備により整備した農道延長							
重点事業の取組内容							
事業名	地域農業経営基盤強化促進計画推進事業						
事業内容	地域の話し合いにより目指すべき将来の農業のあり方と農地利用の姿を明確にするため、農業の将来の在り方や農地一筆ごとに農業を担う者を表示した地図を明確化した「地域計画」を策定し、担い手への農地集積を推進します。						
取組工程	項目	令和6年度					
		計画			実績		
	地域計画の策定	策定			策定		
令和6年度取組内容	●地域の話し合いや農業者への経営の意向確認の結果を踏まえ、計画案を作成し、市内7地区での計画案の説明会や関係者の意見聴取、縦覧を経て、令和7年3月に「地域計画」を策定しました。						
事業名	集落道整備事業						
事業内容	地域農業の健全な発展と総合的な振興を図るため、地域の特性に応じた生産基盤の整備や、生活環境の向上を総合的に推進します。						
取組工程	項目	令和6年度					
		計画			実績		
	集落道の整備 (高部屋地区)	測量・工事 (L=320m)			擁壁設計 (1箇所)		
令和6年度取組内容	●整備対象となる集落道には崩落の危険性がある法面があるため、その保護を目的とした擁壁設計業務を実施しました。また、集落道の擁壁工事及び農道整備工事の発注を行いました。擁壁設置箇所において、地域や耕作者と、出入口の構造や位置の調整等に時間を要したため、次年度への繰越としました。						
事業名	農地耕作条件改善事業						
事業内容	農地中間管理機構と連携しつつ、担い手への農地集積の推進や高収益作物への転換を図るため、農業基盤整備を実施します。						
取組工程	項目	令和6年度					
		計画			実績		
	農道の整備 (下小稲葉地区)	補償・工事 (L=450m)			用地・補償調査 ・工事 (L=260m)		
	水路の整備 (下小稲葉地区)	—			—		
令和6年度取組内容	●農道拡幅に必要な補償調査・用地取得を行い、農道整備工事を260m実施しました。						
重点事業以外の取組内容							
令和6年度主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● [農業政策] 新規就農者等の認定や補助金の交付等による営農継続への支援、経営所得安定対策、市民農園の管理運営等に取り組みました。 ● [営農支援] 環境保全型農業の支援や観光農業、農産物ブランド化、営農団体に対する活動の推進、農業被害の軽減に向けた鳥獣対策、谷戸田の保全、畜産業の振興などに取り組みました。 ● [基盤整備] 土地改良区等との連携・協力による用水路等の維持管理や地元から要請のあった農道や用水路の整備、必要となる原材料の支給等により、農業用施設の整備や維持管理に取り組みました。 ● [森林管理] 水源涵養や災害対策のための間伐作業、これに伴う森林所有者との調整、ナラ枯れ等の病虫害被害対策や林道の維持管理・整備、木材利用の啓発に取り組みました。 						